

6年生の実践

- 1 主題名 広い心（2－（4） 寛容・謙虚）
（資料名「やっぱり気になる」文溪堂）

2 主題設定の理由

（1）価値観

第5学年および6学年の指導内容2－（4）「寛容・謙虚」の価値項目は、高学年から加わる。

「寛大な心をもって他人の過ちを許すことができるのも、自分も過ちを犯すことがあると自覚しているからであり、自分に対して謙虚であるからこそ他人に対して寛容になることができる。」（小学校学習指導要領解説 道徳編）このことは、自己の確立と他者への理解とが密接な関係にあることを示している。

価値の多様化が進んでいる今日、他者を受け入れる開かれた心は特に大切となる。人間は自分の立場や利害だけで一方的な判断や行動をしがちであるが、自己本位では豊かな人間関係を築くことはできない。相手の立場や心情をよく考え、利害による判断や安易な妥協を超えて、広い心で相手のことを受け入れ、分かり合い、許し合う場をより多くもつことで、楽しく潤いのある社会生活を営むことができると考える。そしてそのためには自分をよく知ること大切ということである。

この時期の児童は、かなりの理解力を持ち、物事を分析的に考えたり事象を論理的に判断したりしようとする態度が身についている。また、自立への欲求が強くなってくる時期でもある。

しかし、一方で自らの内面にある様々な感情を静かに見つめ、整理するというように、客観的に自己を振り返るまでにはいたっていない。相手の気持ちや立場を考え、理解しようとすることなく自己ばかりを主張して言い争いになったり、人間関係を複雑にしたりしてしまうことがある。この時期に謙虚な心、広い心をもって他者に接することの大切さを考えさせることは重要なことである。

（2）児童観（男子21名 女子20名 計41名）

6年2組の子どもたちは明るく、素直な子どもたちである。委員会活動やクラブ活動など上級生としてリーダーシップを取らなければいけない場面では、進んで頑張ろうという気持ちをもつことができる。また、学習やマーチング練習でも目標を設定してあげるとそれに向かい努力することもよくできている。しかし、指導者が「こうしなさい」と指示したことにはぐんぐん進むことができても、自己判断を迫られるときにとまってしまうことがある。また、すぐに「むかつく」などの言葉を口にする子も少なくない。それは、自分を認めてもらいたいという気持ちの表れでもあろうが、相手の気持ちを考えず、自分本位な考えから出る言葉でもある。友達が指摘したことについては認めようとはせず、腹を立てたり、トラブルになったりしてしまうこともある。

修学旅行やマーチング練習、組立て体操、チャレンジスクールなど多くの行事を協力の下に成功させることができただけで、日常の生活の中にそこから学んだ「相手への配慮」「自己の抑制」が十分生かされているとはいえない。そのため、広い心をもって相手に対することを考える機会を多く与えたい。この授業では資料を通して主人公の気持ちを考えさせるとともに、自分の意思とは別に、相手の気持ちを考慮して自分の行動を決めることが、お互いの関係をよりよくするために大切であるということを理解させていきたいと考える。そして、6年間の最後に控える卒業に向かって、互いに「広い心」でつながって突き進むきっかけとしていきたい。

（3）資料観

本資料は、テレビのアニメーション番組のファンが集まるインターネット掲示板を舞台にした資料である。書き込みの内容を通して、意見の異なる人に不快感をもち、相手を攻撃してしまおうと思いつめる主人公、由衣の気持ちの揺れが描かれている。場面は大きく分けて4つに構成されている。

1. 掲示板の仲間、キキから、自分の考えを否定される。

2. 漢字の書き間違いを指摘されたりと、嫌みな対応をされた由衣は、一度はキキを非難する書き込みをしようとする。
3. 思いとどまってしばらく掲示板と距離を置く。
4. その後、掲示板を見てみると、仲間たちが思いやりのある和やかなやりとりをしていた。由衣はキキの考えを知り、仲良くしようと思心する。

資料に詳細は示していないが、インターネットの掲示板には、ハンドルネームを使って不特定多数の人々が交流するという性質上、実生活のルール、マナーとは若干異なる点がある。特殊な設定ではあるが、日常生活の中でも、意見や立場の違いからトラブルが発生するものであり、異なる意見を持つ人の立場まで深く考えることまではできない児童も少なくない。主人公の身になって、相手がなぜそのように考えるのか、なぜそのような言動を取ったのかを自分自身で振り返って考えることができるであろう。そして「広い心」で相手を受け止め理解し、大切にしようとする心情を養えると考えられる。

3 指導方針

- 導入部では価値的にマイナス経験を想起させて、誰にでも起こりがちである出来事を話し合える雰囲気を作る。
- インターネットの掲示板という多くの児童にはなじみのない特殊な場所が舞台なので、パソコンに向かう主人公の絵を黒板に掲示したり、不特定多数の人が匿名で自由に交流する場であることなどを押さえながら学習を進めていく。
- 資料提示の前に登場人物を知らせ、読解を助ける。また、文章のままだとニュアンスが伝わりにくく、書き手が軽い気持ちで使う言葉も相手を傷つけてしまうことがある。そこに陥らないためにも地の文とメールの文の区別をしやすくするなど、読み方を変えたりして工夫して教師が資料を読み聞かせ、理解を助ける。
- 主人公の場面における気持ちを確認し、理解を助けるために、表情図を活用する。
- 主人公の心の移り変わりを考えさせ、意見を交流させやすくするためにワークシートを用意し、書き込む時間を取る。
- ワークシートを書かせても、発言が活発になされない可能性があるため、机間指導をまめに行い、具体例として意図的な指名を行う。
- 導入ではマイナス経験を想起させているので、自分の生活を振り返るところでは、あえて受け身ではあってもプラス経験を想起させ、そのときのうれしさを想起させることにより、寛容な態度のよさを心情的に理解させる。

4 本時の学習

- (1) **ねらい** 謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする心情を養う。
- (2) **準備** 教師：読み物資料，ワークシート
児童：筆記用具

(3) 展開

学習活動（主な発問）		予想される児童の反応	時間	指導上の留意点
課題をつかむ	1. 日ごろの自分の生活について思い起こす。 ○今までに相手のすることが許せないと思ったことはあるか。	・約束を守らなかったので怒った。 ・大切にしていたものをなくされた。	5分	・許せなかった経験を想起させ、ねらいとする価値への方向付けをする。
価値を	2. 「やっぱり気になる」を読んで話し合う。 ①由衣は、アニメの放送の後、どんな気持ちで	・またいろいろな人と楽しい話ができる。 ・今日はどんな話がで	5分	・不特定多数の人が匿名で自由に交流し合うインターネットの掲示板の特性を押さえる。

<p>追求する</p>	<p>掲示板を開いているか。</p> <p>②由衣が書き込むたびにキキから傷つく言葉を書き込まれて、どんな気持ちか。</p> <p>③由衣が、画面を見つめた後、書き込みボタンを押さずに文章を消したのは、どんなことを考えたか。 (中心発問)</p> <p>④キキのことが気になっているのは、どうしてか。</p>	<p>きるか楽しみ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・番組のキャラクターの活躍をみんなと話したい。 <p>【人間理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キキの書き込みが気になって、掲示板を見たくない。 ・他の友達と話したいのに。 ・楽しいはずの掲示板が嫌なものになる。 ・漢字の打ち間違いまで指摘するなんて、嫌な人だ。絶対に分かり合えない。 <p>【他者理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんなこと書いても、キキには通じない。 ・キキの気持ちも考えないで、追い出そうとするのは、よくないことだ。キキが傷付くだろう。 ・私も言いたいことしか書いていなかった。 <p>【価値理解・他者理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間同士なのに、これきりでは悲しいな。 ・また仲間と話したいけれどどうしているかな。【他者理解】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに書き込む時間を取りながら進める。 ・掲示板でのやりとりを楽しむ由衣の気持ちを表情図も交え押さえる。 <p>5分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心発問での考えを深めるために、由衣が自分のことばかりに気をとられていること、相手の言葉が心に突き刺さっていることを表情図も交え押さえる。 ・人物を特定した批判は相手を傷付けることを知らせ、必要に応じて、掲示板の使い方には注意が必要であることにもふれる。 ・多様な発言を引き出し、葛藤の内容を整理して板書する。 ・様子を見て周囲の児童同士で意見の交流をさせる。 <p>15分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・由衣は、掲示板の仲間とはもちろん、仲間としてキキとも仲良くしたいという気持ちがあることを押さえる。
<p>価値を内面的に自覚する</p>	<p>3. 自分の生活を振り返り、話し合う。</p> <p>○許してもらえて、相手の心の広さを感じたことはあるか。そのときの気持ちはどうだったか。</p> <p>○「心の広さ」について考えたこと、感じたことは。</p> <p>(4)教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・勘違いで怒ってしまったのに、落ち着いて事情を説明してくれた。相手を尊敬するようになり、より仲良くなった。 ・大切にしていたものを壊してしまった。理由を説明したら、許してくれた。 <p>【自己理解】</p>	<p>10分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちや立場を考えることは難しいが、温かい人間関係を築くためには大切な心構えであることに気付かせる。 ・立場の違いを受け入れてもらった経験を話す。

5 資料分析図

ねらい：謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする心情を養う。
 授業の意図：相手から一方的に攻撃的な言葉を投げつけられた主人公の心の動きと、広い心で自分を抑えた行動をとったこと（価値理解）の大切さについて考えさせる。

中心発問：由衣さんが、画面を見つめた後、書き込みボタンを押さずに文章を消したのは、どんなことを考えたからでしょうか。

意図：異なる意見をもつ人への複雑な思いや、受け入れようとする思いについて考えを深めさせる。

価値理解

他者理解

発問：由衣さんが書き込むたびにキキから傷つく言葉を書き込まれて、どんな気持ちだったのでしょうか。

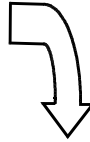
意図：由衣が自分のことばかりに気をとられていること、相手の言葉が心に強く突き刺さっていることを押さえ、人物を特定した批判は相手を傷付けることを知らせる。

他者理解

発問：由衣さんは、アニメの放送の後、どんな気持ちで掲示板を開くのでしょうか。

意図：掲示板でのやりとりを楽しむ由衣の気持ちを押さえる。

人間理解



発問：キキのことが気になっているのは、どうしてでしょう。

意図：由衣には、仲間としてキキと仲良くしていきたいという気持ちがあることを押さえる。

他者理解

発問：許してもらえて、相手の心の広さを感じたことはありますか。そのときの気持ちはどうですか。

意図：相手の気持ちや立場を考えることは難しいが、温かい人間関係を築くためには大切な心構えであることに気付かせる。

自己理解

6 授業記録（T：教師 C：児童）

T：由衣さんが、画面を見つめた後、書き込みボタンを押さずに文章を消したのは、どんなことを考えたからでしょうか。（中心発問）

- C1：「もう来ないで。」はちょっとひどいかな。せっかくの楽しい掲示板だから悪口はやめよう。キキさんの言ってる通り、お話全体を見ることにしよう。
- C2：自分が書かれて嫌な気持ちになることは、相手も同じに違いない。だから言われたら言い返すなんてことはやめて、送信しないことにしよう。
- C3：この書き込みを送ってしまったら、キキが傷つくに違いない。それにお互いのことをよく知り合えれば、キキと仲良くなれるかも知れない。

ワークシート「心の広さ」について、あなたの思いや考えを書きましょう。

- C4：由衣さんは悪口を言われてもそれを返さないのが、心が広いなと思いました。心が広いのはいいことだなと思います。
- C5：キキさんはとても心がせまい人だなと思いました。人がどう思っているかは関係なく、みんなに平等に広い心で考えてあげれば良いなと思いました。
- C6：私は、キキに書き込みを送る前に消したことが、えらいと思いました。それで許るなんて、心が広いと思いました。



中心発問についての意見交流も周囲の児童の間で自然に見られた。

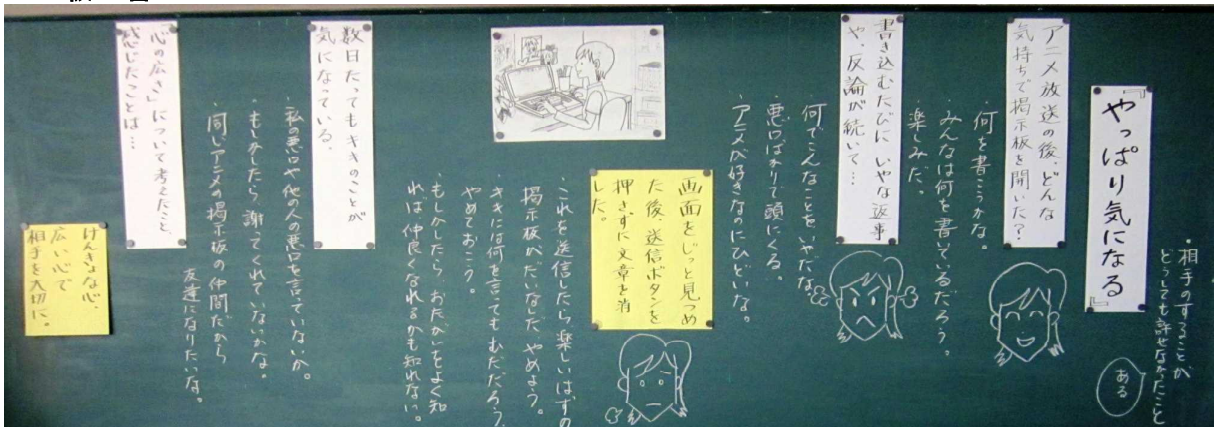
このときの由衣の気持ちはどうなんだろう…。

私ならがまんできないかも…。



ワークシートで自分の意見をまとめて。

7 板書



8 成果と課題 (○成果 ●課題)

【課題をつかむ】

- 教師の資料提示での読み聞かせが、よくできていて状況を把握しやすかった。
- 初めに価値的にマイナスな経験を想起させることがうまくできず、学習する「寛容・謙虚」にうまく結び付けられなかった。
- 「インターネットの掲示板」に関わりすぎると時間もかかり、価値から外れてしまう。

【価値を追求する】

- ワークシートに児童がたくさんの意見を書け、表情図にもよい反応が見られた。
- 中心発問までの流れに時間をかけすぎて、中心発問以降の時間が足らなくなった。
- シートから児童に意図的指名をして、意見を出させたり、交流させて意見の集約を図ってもよかったが、流れを焦り、教師が勝手に拾う形で集約したため、児童の学習への参加が消極的になってしまった。また、中心発問への押さえが不十分になってしまった。

【価値を内面的に自覚する】

- 周囲の児童と意見交換もでき、「広い心」のよさについてまとめる意見も出された。
- 価値の把握が「悪口はいけない」という方向にしまった児童が見られた。